

■教師としての村田邦夫先生
湘南高等学校で村田先生が教えられた卒業生には著名人が実に多い。文芸評論家の江藤淳の「文学と私・戦後と私」(新潮文庫)に「敗戦の翌年に私が入学した旧制中学では戦前からの上級生と下級生の秩序が保たれ、女学生との交際は許されず、見つかると地方新聞の文化欄に毎年『県歌壇の有望新人』として写真が出来る坊主頭の国文の教師に油をしぼつた。



村田邦夫先生を偲ぶ

佐佐木信綱
勅部幹央

■教師としての村田邦夫先生
村田先生には、神奈川県立湘南高等学校、湘南学園、横浜学院の四十五年にわたる「名物教師」時代があつた。湘南高等学校で村田先生が教えられた卒業生には著名人が実に多い。文芸評論家の江藤淳の「文学と私・戦後と私」(新潮文庫)に「敗戦の翌年に私が入学した旧制中学では戦前からの上級生と下級生の秩序が保たれ、女学生との交際は許されず、見つかると地方新聞の文化欄に毎年『県歌壇の有望新人』として写真が出来る坊主頭の国文の教師に油をしぼつた。

■教師としての村田邦夫先生
の晩年二十年間を秘書として、師亡き後は、記念館の企画・運営に約三十年間ご尽力された村田邦夫先生の「師を敬慕し、鈴鹿もうでに捧げた半生」の「特別展」を、私は昨年十二月九日に見学し、改めてその足跡に感動し、懐かしさと寂しさに心ふるえ、胸がいっぱいになつた。



昭和54年撮影
昭和54年撮影ある
糸道空坐
飛鳥

■教師としての村田邦夫先生
の晩年二十年間を秘書として、師亡き後は、記念館の企画・運営に約三十年間ご尽力された村田邦夫先生の「師を敬慕し、鈴鹿もうでに捧げた半生」の「特別展」を、私は昨年十二月九日に見学し、改めてその足跡に感動し、懐かしさと寂しさに心ふるえ、胸がいっぱいになつた。

■教師としての村田邦夫先生
村田先生には、神奈川県立湘南高等学校、湘南学園、横浜学院の四十五年にわたる「名物教師」時代があつた。湘南高等学校で村田先生が教えられた卒業生には著名人が実に多い。文芸評論家の江藤淳の「文学と私・戦後と私」(新潮文庫)に「敗戦の翌年に私が入学した旧制中学では戦前からの上級生と下級生の秩序が保たれ、女学生との交際は許されず、見つかると地方新聞の文化欄に毎年『県歌壇の有望新人』として写真が出来る坊主頭の国文の教師に油をしぼつた。



発行
市
鹿
教育委員会
連絡先
佐佐木信綱記念館
鈴鹿市石塚町
1707-3
TEL059-374-3140

目 次

寄稿「村田邦夫先生を偲ぶ」	勅部幹央	1
記念館ニュース「平成二十年度特別展報告ほか」		
「おもな新資料の紹介」	信綱一首(二十三)	2、3
展示室だより	磯上 知里	1
磯上 知里	「雜考 生家と虫たち」	片岡 正
		4

展示室 だより

弘綱・信綱の 新資料を展示中

昨年七月、鈴鹿市甲斐町の崇徳寺第十一代住職の岡部光道ご子孫である岡部祖子氏より、弘綱・信綱関係資料六点と短冊五十六枚をご寄贈いたしました。

いま

、その資料の一部を展示しています。

① 弘綱書簡
弘綱(明治二十四年没(六十四歳))から岡部光道(明治二十五年没(三十九歳))に宛てた明治二十二年三月十三日付の手紙を紹介します。

光道は『明治開化和歌集』や『弘綱年譜』に名前が出てきます。

弘綱は、多くの門人の中で、四日市の二人の門人ほど優れた人達は稀であったと思い出し、落涙したことがあります。

弘綱は、多くの門人の中で、四日

市の二人の門人ほど優れた人達は稀であったと思い出し、落涙したことがあります。

弘綱は、多くの門人の中で、四日

市の二人の門人ほど優れた人達は稀であったと思い出し、落

